



## 全ての学校における 特別支援教育の推進

新潟県特別支援教育研究会  
副会長 泉 豊

「会報 第127号」（9月1日当会発行）の江口 滋会長の巻頭言にあるように、「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」（令和5年3月）で「学習面又は行動面で著しい困難を示す」小・中学校の児童生徒数の割合は8.8%、高等学校で2.2%であると報告されました。

新潟県では「通常の学級における特別な教育的支援事例集」（全15ページ）が平成29年3月に発刊され、平成31年3月の「通常の学級における特別な教育的支援事例集vol.2」、令和5年5月の「通常の学級における特別な教育的支援事例集vol.3」へと続いています。全87ページになった「vol.3」には「～小・中学校の特別支援教育を推進するために～」と付されました。通常の学級における特別な教育的支援が一層必要とされ、膨らんだページには、「子供の課題別対応事例」が30事例、「通級による指導の成果を通常の学級に生かした事例」が4事例、

「効果的な6つの支援と3つの取組」が9つ掲載されています。

全ての教員一人一人に特別支援教育の資質能力の向上が必要とされていることは、「新潟県教員等育成指標 教諭指標（共通指標）」（令和5年3月改訂）の区分に「特別支援教育」の欄が新たに設けられていることから明らかです。この指標では、教員のキャリアステージを「着任時」「基礎形成期」「能力伸長期」「能力充実期」として各期の目標が示されています。私たちは、通常の学級においても特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍している可能性や事実を受け止めて教育活動を展開することが大切です。

かつて私自身が担任した子どもとの営みを、今、「通常の学級における特別な支援」という視点から思い起こすとき、子どもの困り感に気付けずにいた自分、適切な支援をしていなかった自分の姿が脳裏に浮かび上がってきます。同時に、力量のある同僚が困り感のある子どもを学級で活躍させたり、障害の有無を感じさせない学級経営で子どもを成長させたりしていた様子が思い出されます。

昭和28年の設立から70年の実績をもつ新潟県特別支援教育研究会は、規約に示す目的に向け、今後、特別支援学級の有無にかかわらず全ての小・中・特別支援学校の職員を会員として事業を推進する必要があるでしょう。

注）第2条（目的）本会は特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する教育の推進を図ることを目的とする。

### 令和5年度 主な事業報告

#### ○三役会

- 第1回三役会（鏡淵小学校会議室開催）  
令和5年5月29日（月）
- 第2回三役会（オンライン開催）  
令和5年9月8日（金）
- 第3回三役会（オンライン開催）  
令和6年1月11日（木）

#### ○理事会

- 第1回理事会・評議員会  
（対面・オンライン開催）  
令和5年6月8日（木）
- 第2回理事会・評議員会（オンライン開催）  
令和6年1月30日（火）

#### ○研究大会

- ・上越地区柏崎刈羽大会（8月4日実施）
- ・中越地区魚沼大会（11月9日実施）
- ・下越市区新発田市大会（11月24日実施）
- ・佐渡地区大会（今年度は開催なし）

#### ○全特連関係

- ・全日本特連全国大会徳島大会  
全体会（令和5年10月19日）
- ・関東甲信越地区大会栃木大会  
全体会・分科会（令和5年8月4日）

#### ○会報

- ・会報127号（9月）、128号（3月）発行

#### ○全国大会新潟大会に向けて

- ・全特連全国大会新潟大会の実行委員会を設置



## 令和5年度 各地区研究大会 報告

### 【上越地区・柏崎刈羽大会】

大会主題「ICT機器を活用した特別支援教育の推進における課題」のもと、上越地区の小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各関係機関から360名を超える参加者を得ての開催になりました。

講演会では、独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科医の石丸直樹様を講師にお迎えし、「発達に特性が見られる子のメディアとの上手な付き合い方」という演題でご講演いただきました。①ゲーム依存症（行動症）とは②なぜ依存症になるのか③ゲーム障害と神経発達症の関係④依存症の治療⑤ゲーム依存症の予防⑥石丸先生からのメッセージという内容でお話しいただきました。

「ゲーム障害と神経発達症の関係」においては、依存症の方は、かなりの割合で、何らかの生きづらさを抱えている人が多いこと、神経発達症（ASD、ADHDなど）の特性があると、日常生活では、周囲の批判を受けることが多くなり自尊心、自己肯定感が低下してしまうこと、逆に、ゲームの世界では、こだわりの強さや集中力の高さが好結果につながり、周囲からの称賛を得ることで自尊心が向上し、ゲームへの依存が高まる傾向があることなど、具体的なお話がありました。

その上で、依存症の治療においては、目標は、ゲームをやめさせることではなく、有害使用を避けること、無理にやめさせるのは逆効果であること、また、ゲームよりも楽しいことが現実世界にあると気付いてもらう「リア充」が必要であることを教えていただきました。

今回は、会場参集とオンライン視聴によるハイブリッド型の大会として実施しました。大勢が気軽に参加できる大会になりました。来賓・講師をはじめ、大会運営にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

（事務局 柏崎市立田尻小学校）



### 【中越地区・魚沼大会】

大会主題「これからの時代に求められる特別支援教育のあり方」のもと開催いたしました。中越地区の小・中・特別支援学校の教職員、各関係機関から、会場参加およびオンライン参加合わせて150名を超える参加を得ての開催となりました。

講演会では、新潟大学大学院実践学研究科教授の長澤正樹様をお迎えし、「特別支援教育からインクルーシブ教育へ」という演題で講演いただきました。子どもたちの多様性を尊重し、教育的ニーズを把握した上で指導と支援を提供するために、正しく、新しい知識の獲得、通常の学級における特別な教育の重要性についてご講演いただきました。話合いを通じた情報共有、専門機関と連携することの大切さについて再確認できました。またインクルーシブ教育システムの構築のために、長澤先生からたくさんのアイデアをいただき、参加者は多くを学ぶことができました。

その後、大会主題をテーマとしたシンポジウムを行いました。5名の発表者による実践発表（①特別支援学級②言語通級指導教室③発達障害通級指導教室④特別支援学校⑤適応指導教室）の後、特別支援教育の充実と連携という視点で情報交換と意見交流を行いました。指導者からは、多様な学びの場を用意することや、教員のカリキュラムマネジメント力の重要性、子どもとの対話を大切にする必要性などの確なご指導をいただき、充実したシンポジウムとなりました。

今回の大会で、これからの時代のニーズに応じた特別支援教育を求め続けていくことの重要性を確認することができました。今回得た知見と経験を、今後の教育現場で生かしていきたいと思えます。

お忙しい中、指導者の皆様をはじめ、発表者、司会者の皆様、大会運営にご尽力くださった皆様に深く感謝申し上げます。

（事務局 魚沼市立広神西小学校）





## 【下越地区・新発田大会】

今年度、下越地区は新発田市生涯学習センターを会場として、対面とオンラインのハイブリッド開催で新発田市大会を実施しました。大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」のもと、対面とオンライン合わせて約270名の参加者がありました。

全体指導では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事の廣川豊士様よりご指導を賜りました。「新潟県の特別支援教育の現状と課題」と題し、これからの取組として多様な学びに応じた教育の場の整備や通級指導教室の新設、専門性の向上・人材育成、多様なニーズに応える学校づくりを充実させることが、よりインクルーシブな方向へと進むために重要となることをご指導いただきました。

講演会では、県立新発田竹俣特別支援学校いじみの分校教頭の横堀壮昭様を講師にお迎えし、「体験して考えよう！～特別な支援が必要な子どもの見え方・感じ方～」という演題でご講演をいただきました。日本LD学会が作成した心理的疑似プログラムを通して、LDやADHD等のある子どもたちが普段の学習においてどんなことで困っているのかということを経験しました。その後、体験した感想やそれぞれの立場でどのような支援ができるのかペアワークやシェアリングを行いました。参会者からは「子どもの『分からない』という苦しさが分かった。」「十分な時間を取るなど困難さに応じた支援の大切さが分かった」などの声が聞かれ、子どもの困難さや学びを支える支援について体験を通して理解できる貴重な時間となりました。

来賓・講師・指導者の先生方をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げます、報告といたします。

(事務局 新発田市立二葉小学校)



## 全特連・関ブロ栃木大会

県内派遣：提案者1名 司会者1名

発表者 長岡市立新町小学校

高松 敏之 教諭

第二分科会「通級による指導」で、器質的な問題を抱える児童への構音指導について提案発表いたしました。司会は見附市立今町小学校の近藤和行先生から務めていただきました。

ことばの教室に寄せられる相談には、ごく少数ですが器質的な問題から生じる構音障害があります。この場合、指導だけで構音を改善することは難しく、医療機関での外科的な処置が不可欠だと考えています。日頃から児童の構音と合わせて、口腔内の観察や舌の動きに注意を払う必要があると考えています。

指導・助言者の栃木市立合戦場小学校の庄司秀樹校長先生からは、「連携」をキーワードにした指導をいただきました。一つ目は「子どもと保護者の思いを大切にしたい医療との連携」、二つ目は「ことばは生活の中で使うものであることを念頭に置いた学級担任との連携」です。

本大会で学んだことや得た気づきを今後の教育活動に生かし、児童が「できた」と感じる場面を一つでも多く作っていきたいと思います。





## 祝 全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

山崎 睦子 様

(副会長 三条市立裏館小学校長)

長年にわたり、当県の特別支援教育の発展に貢献され、表彰されました。

## 令和8年度 全日本特別支援教育研究連盟全国大会 新潟大会 開催のお知らせ

令和8年に、全日本特別支援教育研究連盟の全国大会が開催されることが決定いたしました。全国から多くの先生が来県し、素晴らしい実践を聞くことができるまたとない機会となります。開催にあたり、多くの先生方から今後ご協力をいただくこととなるかと思っております。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和6年度 各種大会・研究会等の予定

### 第63回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会 福井大会

- 令和6年11月21日(木)、22日(金)
- 開会行事、記念講演、分科会(数会場に分かれ、対面での実施を予定)

### 第58回 全日本特別支援教育研究連盟 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 千葉大会

- 令和6年8月23日(金)
- 開会行事、記念講演、研究・実践報告(対面での実施を予定)

### 令和6年度 地区別特別支援教育研究大会

- |            |                               |            |            |
|------------|-------------------------------|------------|------------|
| ○上越地区上越大会  | 8月2日(金)                       | 上越文化会館     | *対面及びオンライン |
| ○中越地区長岡大会  | 8月5日(月)                       | 長岡市教育センター  | *対面及びオンライン |
| ○下越地区新潟市大会 | 11月27日(水)                     | 新潟市江南区文化会館 | *対面及びオンライン |
| ○佐渡地区研究大会  | 令和6年度は開催しません。(次回は開催は令和9年度を予定) |            |            |

### 令和6年度 新潟県特別支援教育研究会 研究部研修会

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| ○知的障害部          | (事務局：新潟市立新津第一小学校) |
| ○自閉症・情緒障害部      | (事務局：長岡市立千手小学校)   |
| ○肢体不自由・病弱・身体虚弱部 | (事務局：見附市立今町小学校)   |
| ○言語・難聴部         | (事務局：新潟市立万代長嶺小学校) |
| ○視覚障害部          | (事務局：新潟よつば学園)     |

※各部において、オンライン又は対面での実施予定。

### 編集後記

県特支研だより「No.128号」をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。